



京都 漢方専門クリニック

明徳漢方内科

TEL 075-352-3737



患者様へ

漢方薬の服用にあたっての注意点

～漢方薬の副作用について～

A よくある軽い副作用とその対応

1. 胃もたれ、食欲不振

以下の対応を行った上で、それでも治まらない場合は一旦服用を止めて医師に御相談下さい。

① 食後服用に変える。

但し、他の西洋薬を食後に服用している場合は、先に西洋薬を服用して1時間程後に漢方薬を服用して下さい。



② 服用回数を減らす。

1日3回服用の漢方薬は2回に（2回服用の漢方薬は1回に）服用回数を減らして、それでも問題なく服用できるようになってから、処方通りの服用回数に戻して下さい。

③ ショウガを加える（煎じ薬の場合）

スーパーで売っている生のショウガを親指の頭大（第一関節から先の大きさ程）を、包丁で2～3枚にスライスして薬局で処方された漢方生薬と一緒に煎じて下さい。もともとショウガを加えて煎じるように指示されている処方、胃もたれ・食欲不振が出た場合には1包分の煎じ薬を2日かけて各朝夕で服用してみて下さい。（実質的に服薬量を半減することになります。）



2. 昼間の眠気

多くの場合は患者さんに疲労が溜まっていて、漢方薬を服用することでその疲労を自然に感じられるようになったためです。まずは意識的にたっぷり睡眠時間を確保するように心がけて下さい。それでも、昼間眠くて仕事や学業に支障を来すようであれば、漢方薬を眠前1回、あるいは夕食前（後）1回だけに減らして下さい。



→ ウラ面も御覧下さい。

B まれに起こり得る**重大な副作用**へのご注意

漢方薬にも副作用が起こる場合があります。頻度は多くないので過度に心配する必要はありませんが、漢方薬の服用開始後に以下のような症状が現れた場合は特に注意を要します。

その場合は**いったん服薬を中止して**、医師に御相談下さい。

1. 偽性アルドステロン症

- ① **手足のだるさ、しびれ、つっぱり感、こわばり、**さらには
力が抜ける感じ（脱力感）、こむら返り、筋肉痛が現れてくる。

- ② **血圧上昇**（普段より明らかに血圧が高くなります。）

- ③ **むくみ**（普段より明らかにすねや顔、指が腫れます。）

※ 主としてカンゾウ（甘草）による副作用です。甘草は大部分の漢方エキス製剤に含まれています。



2. 間質性肺炎

- ① **空咳、息切れ、発熱**

※ 主としてオウゴン（黄芩）を含む漢方薬による副作用です。



3. 薬剤性肝障害

- ① **倦怠感、食欲不振、吐き気**

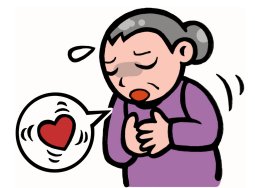
- ② **発熱、発疹、かゆみ、黄疸（目が黄色く染まるなど）、倦怠感**

※ オウゴン（黄芩）、ウコン（姜黄）、ガジュツ（莪朮）等を含む漢方薬で起こることがあります。

4. その他

- ① **吐き気、動悸、脈の乱れ、舌や口のしびれ、血圧上昇**

←ブシ（附子）やウズ（烏頭）を含む漢方薬で起こることがあります。



- ② **尿閉（おしっこが出ない、特に高齢男性で注意）、動悸、不眠、発汗過剰**

←マオウ（麻黄）を含む漢方薬で起こることがあります。

麻黄は多くのカゼの漢方薬に含まれていますが、カゼ以外の処方にもあります。

- ③ **薬疹（発疹、かゆみ）**

←オウギ（黄耆）、ケイヒ（桂皮）、ケイシ（桂枝）、トウキ（当帰）、
オウゴン（黄芩）などで起こることがあります。



その他ご不明の点は医師に御相談下さい。